



熊本市保育園連盟 保育士会

こんにちは！保育士会です



九州の保育士会会長会議がありました。

能登半島地震について、全国保育士会被災地支援スキャンポ募金で対応をします！と報告がありました。

1月号でお伝えした通り、皆さんが所属している全国保育士会です。（熊本にいただいた義援金は「保育者のこころえ」をつくる資金となりました）確実にこどもたち、保育者たちに届くように。

熊本地震の時、余震も長く続き取り残されたような気持ちになりました。

九州や全国の保育のなかに声をかけてもらい、一人じゃない！仲間がいる！と感じました。

今度は私たちにできることを。



【保育の安全研修会】R6.1.31 保育の安全研究・教育センター掛札逸美氏（心理学博士）オンラインにて開催しました
保育者を守るために保育の安全と保護者とのコミュニケーションについて、深刻な事態や事故を防ぐため、新年度に向けてどのように取り組むかを考えていく。保育者の仕事は子どもを育てることであり、子どもを育てるとい
うことは10年後、20年後の未来を作っているということであり、それは人類最大の価値である。

園の日常生活の全ての行事について、子ども一人一人の成長発達に合った、
今の科学に基づく価値を説明できるか？

○食事や排泄、睡眠、活動、行事など。無理矢理食べさせたりしていないか。

○「何でもきちんとさせようとする昭和の保育」が今でも正しいのか。

不適切保育は、子どもにとっても保育者にとっても大きなストレス

未就学児保育は適切か不適切かを考えるより、どのように質を向上させて

いくかを考える方が良い。

○今、社会が想定している（命の）リスクや（園、職員の）責任と、園の想定に齟齬
（そご）はないか？

○「価値」の皿に、無用／危険な「良かれ」「かわいそう」（園の主観）をのせて
いないか？

○事故で深刻な結果を予防する第一歩はできごとの特徴を理解すること

・ケガにつながる可能性のある全身性の出来事＝つまずく、滑る、ぶつかる、転ぶ、落ちる⇒結果は想定できない

・ケガにつながる可能性のある、体の一部に起こるできごと＝切る、はさむ、刺す、こする（はさみ、ピンセット、
つまようじ、扉、箸、枝）⇒結果は想定容易

・息ができないこと＝溺れる、首が絞まる、押される、鼻と口がふさがれる、喉か気管がふさがれる（水、ヒモ、
布他）⇒結果もリスクも容易に想定できる・・・死亡、脳障害

●健康、安全では、根拠のない「大丈夫」を言わない！

※「保育の安全研究・教育センター」のサイトを新年度に向けて全職員が目を通す！はともとても大事です。

保護者とのコミュニケーション、虐待的関わり等保育の様々な情報があります。ぜひ活用しましょう。

リモートで園内研修もおすすすめです。

**もっとも広い意味での
リスク・マネジメント**

価値とリスクは、常に天秤の上
＝活動のほぼすべてはこちら

ケガやケンカ等 = 育ちと学び

「活動として適切でないもの」を
明確に見分ける = 質向上

一般社団法人熊本市保育園連盟会員の皆様、保育士会会則、給食部会会則をご存知ですか？連盟5月に開かれた保育研究大会の最後のページに載せてあります。役員の輪番制についても書かれています。ブロックも含め、専門性を高めるため、会員の親睦を深めるためなどを目的に事業を計画、企画、実施してまいりました。研究大会資料が、その報告、まとめになります。確かに終わった研修ではありますが、内容は、これからの保育に活かしていく学びの資料です。目を通すと、自分の保育のヒントが見えてきます。現在R5年度に開催された研修をまとめています。

＜九州ブロック保育士会報告＞

- ・第 35 回九州ブロック保育士会セミナーについて

〈第 8 回九州保育三団体研究大会 熊本県大会（令和 6 年 7 月 11 日(木)～12 日(金) 初日 16:30 予定〉

講師 明星大学教育学部教育学科 教授 星山麻木氏

- 一) 子ども家族早期発達支援学会会長
- 一) 星と虹色な子どもたち代表

- ・全国保育士研究大会 研究発表輪番表（案）

開催年度	R6 年度	R7 年度	R8 年度	R9 年度	R10 年度	R11 年度
担当県・市	熊本県 福岡県 佐賀県	大分県	熊本市 宮崎県	鹿児島県 長崎県	沖縄県 北九州市	福岡市 熊本県

※熊本市は令和 7 年度に打ち合わせをし、講師と研究に取り組み、令和 8 年度に発表予定

※11 年度以降、繰り返し

＜九州ブロックリーダーセミナー＞

- ◎『保育所等における BCP（業務継続計画）について 災害をイメージし、BCP へつなぐ』

日本福祉大学 医療福祉・マネジメント学科 教授 山本克彦氏

BCP の目標

- ①利用する子どもの安全の確保・保護者の安全の確保
- ②こどもの保育・養護を実施する職員の安全の確保
- ③施設機能の維持
- ④早期復旧・再開

- ・風水害は予測可能⇒避難可能 地震⇒予測不可能

何かあったら園が子どもの命を守る・・・あなたの園はどんな災害を想定していますか？

保護者や地域と共有しておく、防災・減災への取り組み

- ・まずはガイドライン等をまねること、そこにああなたの施設に起こり得る様々な状況や変数を当てはめること ⇒想像力と創造力をフルに活用、職員、保護者、地域と共に作成すること

朝・夕方だったら、土曜日だったらなど

- ◎基調報告『全国保育士会活動について』全国保育士会 副会長 北野久美氏

令和 6 年度に向けて

- ・改正児童福祉法の施行やこども未来戦略の「加速化プラン」の集中取り組み期間スタート
- ・国の動向を注視しながら、こどもの育ちや地域の子育て家庭を支える



保育の中で「質」「専門性」を意識しつつ、子どもや保育者自身がワクワクし、生き生きした保育の展開を！

保育者・保育現場における虐待・不適切保育が生まれるのは

こどもの人権侵害、不適切な保育行為、質そのものの低さ が原因

こども適切な保育って・・・??

職員同士語り合うことが大切

新年度に向けて行事や保育の計画が始まっていることと思います。

まずは、令和 5 年度の振り返り！ヒヤリハットの分析もとても大切です。

専門職として、まず気になるのはこどもと保護者の愛着関係や、人に対する信頼関係は・・・など。これから、益々期待される保育者。学びあい、前に進んでいきましょう。



・ほぼ毎週日曜日 掛札逸美先生の保育の安全の動画配信
・3月10日(日)熊本小児保健研究会